

「新世代による環境をテーマとする模擬国連」(参考資料)

この事業は、新世代のための会議を、環境をテーマに模擬国連の手法で行おうというものです。本事業をより充実したものとするため、模擬国連を20年あまり実施している組織「日本模擬国連」に協力をいただきます。

「模擬国連」と「日本模擬国連」について

「模擬国連」は国連での会議を想定し、一人が一国の大使となって会議に臨み、外交戦略を立てながら利害関係の異なる他国の大使と交渉を繰り返します。この活動では、国際問題への理解のみならず、担当国の政策立案や外交戦略を立てる際のリサーチ、会議に臨めば他国との外交交渉を必要とするため、単なるディスカッションのみに終わらない特殊性があります。この活動はさまざまな国際問題をより多角的な視点でとらえる必要性を教えてください。

模擬国連活動の起源は、1923年にアメリカ合衆国ハーバード大学で創設された「模擬国際連盟」に遡ることができ、第2次世界大戦後は国際連合創設に伴い後継として模擬国連(Model United Nations)が開始されました。その活動は国際連合のウェブサイトでも紹介されており、現在では米国や欧州を中心に20万人以上の大学生や高校生が、授業や課外活動の一環として模擬国連に参加しています。また、世界35カ国で年間400以上の模擬国連会議が開かれています。

日本において模擬国連は、1980年代、欧米の教育機関への留学から帰国した教員や学生により次第に大学や高校の授業に採り入れられるようになりました。その流れを受け、1983年に上智大学において緒方貞子教授(当時)の顧問の下「模擬国連実行委員会」が発足しました。これを期に日本国内への模擬国連の普及がなされ(千葉県では1985年「国際青年年ちば推進会議」が実施しました)、現在では全国の学生が主に課外活動として取り組んでいます。

「日本模擬国連」は、模擬国連活動に携わる大学生で構成される全国規模の組織で、様々な研究会・支部を有するほか、近年では高校生の活動も急増しています。当初は毎年ニューヨークで開催されている「模擬国連会議全米大会」への日本代表団の派遣を中心に活動を行っていましたが、委員会の規模の拡大に伴い、日本国内における模擬国連の活動を本格化させ、2010年、名称を現在の「日本模擬国連」に改名しました。日本模擬国連の目的は、「模擬国連」という活動を通じて、さまざまな国際問題についての理解を深めると共に、それらの問題の解決策を探り、国際社会に貢献できる人材を育成・輩出することです。また、国際政治や国際問題を体験的に学習する効果的な方法として「模擬国連」を日本において普及させる役割も担っています。

(上記は「日本模擬国連」作成の資料を基にしています。)
